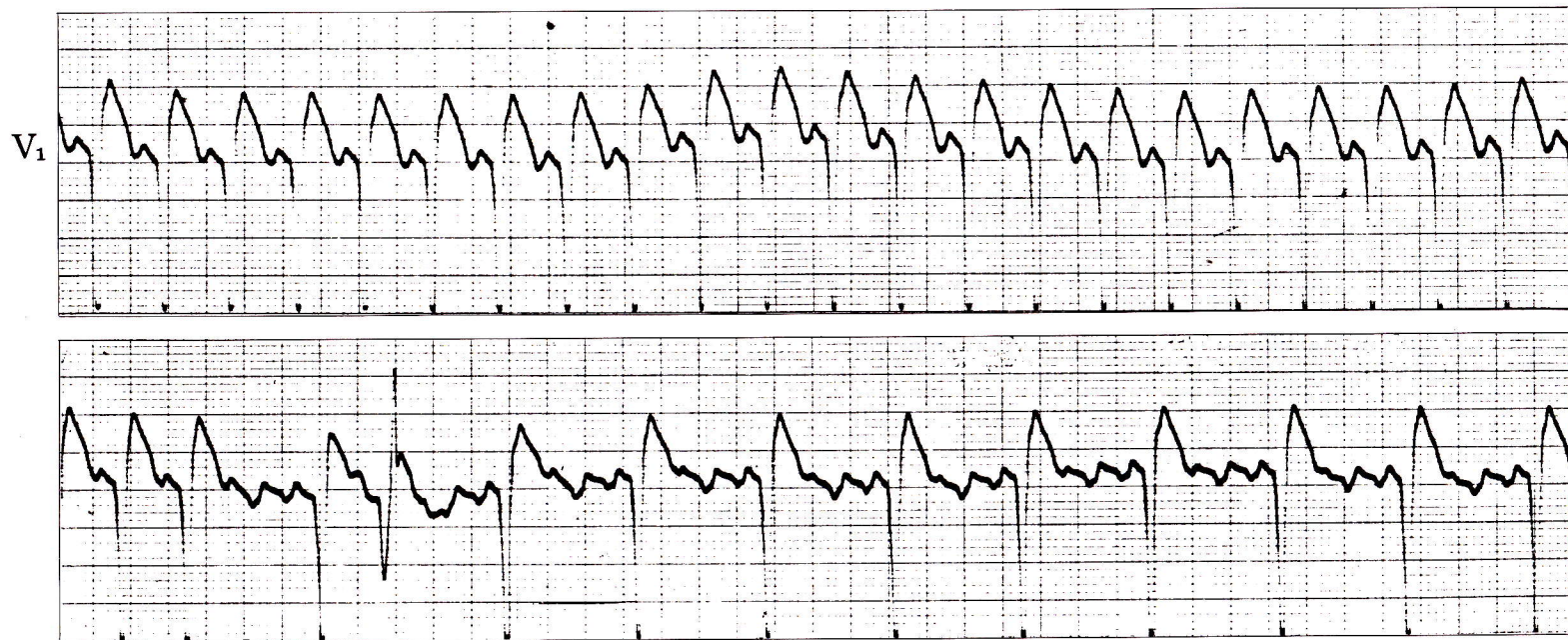


症例 30

●50歳 男

急性前壁中隔梗塞にてCCUへ入院。第1病日目の心電図である。



(連続記録)

1) このリズムは何か。

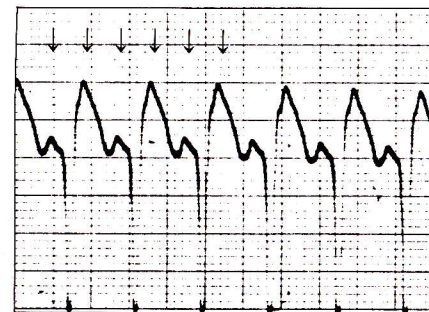
心電図診断

心房粗動(2対1伝導→4対1伝導)

前半部 約170/分の規則正しい頻拍、QRS幅
 <0.12秒。QRS波の直後にも心房波
 (↓)。心房頻度340/分→F波。F波2
 個にQRS波1個。

後半部 基線に鋸歯状の規則正しい振動(F波)。
 F波4個にQRS波1個。

下段4拍目は心室性期外収縮。



解 説

2対1、1対1伝導の場合、心房波の同定が困難であり、発作性上室性頻拍、洞頻脈との鑑別を要する。眼球圧迫、頸動脈洞マッサージにより、心室頻度を減少させ、F波の存在を確かめるのが望ましい。

この症例のように心房粗動で2対1、1対1伝導のため頻脈になっている場合には、ジギタリスの静注により、3対1、4対1伝導にして心拍数を減少させ、自覚症状を軽減させることができる。